

セミナーのお知らせ

(大学院講義 生体高分子学特論)

日時：5月15日(水) 11時15分～13時

場所：2104講義室

講師：鶴下直也 先生

(JN Biosciences LLC 共同創始者)

演題：米国バイオベンチャーで薬をつくる

1975年に発表されたハイブリドーマ技術に端を発するモノクローナル抗体医薬は、昨年のノーベル医学生理学賞および化学賞が抗体医薬研究者に授与されたことから窺える様に、今や医薬品の中で重要な位置を占めるようになった。抗体医薬の秘める可能性は早くから注目されていたが、ヒト体内での免疫原性への懸念、低い生産性、製剤の難しさ等の理由で、1990年代には多くの製薬企業が研究開発から手をひいた。その一方で、抗体医薬の研究開発は欧米のバイオベンチャー企業により脈々と続けられたことにより、臨床応用の障害となる問題点が次々と解決され、現在では癌や自己免疫疾患などに対する抗体医薬が多数上市されるようになった。

本講義では、抗体医薬研究開発の歴史を紐解きながら、特にその中でバイオベンチャー企業の功績を振り返り、さらには、これからの日本のバイオベンチャー企業の果たす役割を考察したい。

<鶴下直也先生 ご略歴>

京大ウイルス研究所助手を経て、1991年より抗体技術の代表的ベンチャー、Protein Design Labs, Inc. (2010年アボットに買収)の蛋白工学部門ディレクターを務める。2005年からは、日米バイオベンチャー、製薬企業で抗体医薬研究開発に関するアドバイザーを務めるとともに、カリフォルニア州Mountain View市に、新規抗体工学技術と抗体医薬の研究開発を行うバイオベンチャーJN Biosciences LLCを設立(2008年)し現在に至る。

多数の方々のご来聴を歓迎いたします。

生命科学部 生物工学研究室 冨塚一磨 (042-676-7139, ex. 3070)